

令和4年度 県立水戸特別支援学校自己評価表（様式2）

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

| 目指す学校像 | テーマ:！？をたくさんみつけよう 行きたくなる学校を目指して *たくさん選択肢がある学校 *安心して失敗ができる学校 *地域のみんなが応援してくれる学校 | | | | | |
|---|--|--|---|----------|----|--|
| 昨年度の成果と課題 | 重点項目 | 重点目標 | 達成状況 | | | |
| ○学校の在り方に関しては、令和4年度からのコミュニティ・スクール実施に向けて校内推進委員会を設置したり、学校評議員や近隣の有識者を交えてオンラインでの協議会を実施した。「地域とともにある学校」を目指して意見交換を行うことにより、本校の地域での位置づけや解決策についての確認作業に取り掛かることができた。令和4年度は学校運営協議会を中心に、「地域とともにある学校」について様々な視点から「熟議」を重ね、コミュニティ・スクールとして出発したい。 ○学び方改革、教え方改革に関しては、ICTの積極的な活用を推進し、新型コロナウイルス感染症による分散登校等においてもオンライン授業を行うなど、教育機会の確保に努めることができた。タブレット端末も児童生徒はもとより教員にも一人一台支給されるので、さらにICTを活用した教育活動に力を入れていきたい。学校テーマにもあるように、児童生徒中心に据えた主体的な教育活動を教員一人一人が意識していく必要があり、教師の在り方について学校全体で再考していく。 ○働き方改革に関しては、退勤時間の5分前に放送を流し退勤を促すことで一人一人が時間を意識して業務を遂行するようになりつつあり、勤務超過時間が月45時間を超える職員はいなくなった。引き続き時間を意識した業務遂行を促していきたい。また、職員の長期の休暇や出張棟で人員が不足した際には、学年を超えて部や学校全体で対応策を検討するなど、一人一人がマクロな視点をもつ必要がある。 | 1 学校の在り方をアップデートする | ①たくさん選択肢を用意する ・ICTの活用による多様な学び方の推進 ・教師自ら「！？」を見つけるとともに解決しようとする取組 ②安心して失敗できる環境作り ・一人一人の状況に応じたきめ細やかな支援 ・主体的な行動を促し認める支援 ・挑戦する人を応援する支援 ③地域とともにある学校 ・コミュニティ・スクールの取組 ・学校の外に出て「！？」を見つける取組 ・関係機関と積極的に情報を共有する取組 ・地域のみんなどと共に学ぶ取組(交流等) | A | B | | |
| | 2 学び方改革を推進する | ④積極的な情報発信 ・OUTPUTを積極的に取り入れる ⑤社会とつながりながら体験を中心とした活動の充実 ・小学部からのキャリア教育の充実 ⑥「！？」から始まる学習スタイル ・自ら課題を発見し、解決に向けて学ぶスタイルを推進する | A | | A | |
| | 3 教師の在り方をアップデートする | ⑦子供の心に火を付ける取組 ・子供の「！？」を大切に取る取組 ⑧学び続ける教師 ・自己研鑽の時間の確保(自主的勉強会の推進) | B | | A | |
| | 4 働き方改革を推進する | ⑨プロジェクトチームによる実践 ・安心して働ける環境づくり ⑩コンプライアンスの遵守 ・ワーキンググループによるボトムアップ研修 ・業務の抜本的な見直し 等 | B | B | | |
| | 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 重点目標との関連 | 評価 | 課題及び次年度(学期)への改善策 |
| | 教務部 | ○新学習指導要領を踏まえ、児童生徒の実態に合った教育課程を編制する。 ○情報の管理に努めながら、オンライン会議や資料のペーパレス化による効率的な情報共有や会議運営を図る。 ○業務の見直しと削減による働き方改革の推進を図る。 | ・各部の課程会等の意見聴取をしながら、計画的に教育課程検討委員会を設定し、丁寧な見直しを行う。 ・情報の管理を念頭に置いた上で、各種事業が円滑に進められるよう、ICTを活用した会議・連絡会等のもち方を工夫し、効率的に情報共有ができるようにする。 ・コンプライアンス意識に基づいた業務の見直しを進め、ワークライフバランスを意識した働き方ができるようにする。 | ②⑥⑨⑩ | B | ・教育課程の編成に向けた、学部や課程会での話し合いの機会を大切にし、職員の参画意識を高める工夫をしたり、具体的な改善策を示してもらい工夫を必要がある。 ・会議資料は共有ドライブを使用し、タブレット端末で閲覧するようにした。情報管理としてのペーパレス化と効率的な業務の遂行につなげられるよう、今後も継続していく。 |

| | | | | | |
|-----------|--|---|-----------------|---|---|
| 事務部 | <p>○計画的・効率的・有効的な予算の執行と事務事業の見直しを図る。</p> <p>○施設設備の適切な維持管理を通して、児童生徒の安全確保に努める。</p> <p>○働き方改革として、時間外勤務の縮減に努める。</p> | <p>・予算要求内容の早期把握と事務事業の精選を図り、学校運営予算の円滑な執行に心がける。</p> <p>・防災安全指導係と連携し、定期的な巡回による安全点検を実施し、危険箇所・修繕箇所の早期発見・対応と安全対策及び事故防止を心がける。</p> <p>・事務分担を見直し、各業務のバランスを考え、時間外での勤務が生じないようにする。</p> | ②⑩ | B | <p>・各施設の修繕箇所の特定・各学部等の要望を正確に把握し、速やかな予算の執行ができた。来年度も早めに予算配分ができるようにしていく。</p> <p>・児童生徒の安全快適な教育環境を目指し、駐車場改修工事、高等部自動ドア設置工事等の整備をした。</p> <p>・時間外勤務の縮減は概ねできた。</p> |
| ICT推進部 | <p>○児童生徒用、教師用タブレット端末を有効に運用できるように管理運営する。</p> <p>○校内サーバーでのデータ管理を徹底しセキュリティと利便性を確保する。</p> <p>○情報モラルについての研修会を実施し、個人情報等についての知識がある人材を増やす。</p> <p>○本校情報機器を使いこなせる人材を育成する。</p> | <p>・タブレット端末を有効に活用できるように、GoogleDriveでの情報共有やロイロノートなど、学習等に活用しやすい環境を整備する。</p> <p>・業務の負担軽減につながるよう、GoogleDriveでの情報共有や一般フォルダの整理など、使いやすいデータの運用環境を整える。</p> <p>・どのようなものが情報モラルか具体化し、どのような行為が危険なのか適時伝達する。</p> <p>・特定の人間以外でも状況に対応できるように、機器の操作方法など適時技術伝達しつつ、マニュアルの作成をする。</p> | ①②⑤ ⑥⑦⑨ ⑩ | B | <p>・GoogleClassroomを通して、情報共有のやり方を説明したり、ロイロノートの研修会を春と夏に設け、希望参加にすることで、学習等に活用しやすい環境を整えることができた。</p> <p>・アンケートやスプレッドシートなどの一覧をGoogleDriveに作成することで、答える場所が分かり、運用環境を整えることができた。</p> <p>・GoogleClassroomを使用し、情報モラルについての時の状況に応じた説明文書を適時伝達することができた。</p> <p>・スタジオのスイッチャーなどの技術研修を行うことができた。</p> |
| 支援部 | <p>○地域の特別支援教育のセンター的機能の充実を図る。</p> <p>○来校の方だけでなく地域に向けても広く本校の教育活動を知らせ、理解啓発及び推進する。</p> <p>○児童生徒の状況等に応じた具体的支援と必要に応じて関係機関との連携を図る。</p> | <p>・「肢体不自由のある幼児児童生徒に関する支援希望調査」の実施とニーズに応じた巡回相談の実施(出向き相談、来校相談、電話相談、専門家派遣等)</p> <p>・年2回の学校見学会、学校公開の実施</p> <p>・校内外での定期的な作品、作業製品の展示による理解推進</p> <p>・居住地及び学校間交流の実施、コミュニティスクールと連携した地域交流の検討</p> <p>・就学、入学時移行支援連絡会の企画、運営、実施による新入、転入学児の関係機関との連携</p> <p>・児童生徒のケースに応じた各関係機関との情報共有と連携</p> | ③④⑤ ⑥⑦⑨ | A | <p>・次年度も、通学区域内の学校等に在籍する幼児児童生徒の状況を把握し、必要に応じて巡回相談等につなげるなど、センター的機能として地域に貢献する。</p> <p>・教育月間に合わせて地域の公共施設3か所で作品展示を実施した。学校の理解啓発、推進の観点から展示期間を延長して実施したい。</p> <p>・学習活動で、近隣の市民センター等で市民講座を受講する地域の方に授業に入ってもらい、教えていただくような交流を地域交流として実施できないか、検討する。</p> |
| 学習指導改革推進部 | <p>○本校の教員が、肢体不自由特別支援学校の児童生徒の実態を的確に把握し、児童生徒が社会とつながるための主体的な学習指導を行うことができるように、研究研修および推進をする</p> | <p>・実態把握、実態に応じた指導の研究研修の推進</p> <p>・教員同士の情報共有の場や、教職員の主体的な学びの場の提供</p> <p>・若手教員の育成</p> | ①②④ ⑤⑥⑦ ⑧ | B | <p>・タブレット端末活用に関する調査を行い、現状把握したり活用例の紹介をししたりしてタブレット端末の活用を促した。</p> <p>・教員が指導者となって研修を行ったり、研究や研修で児童生徒の実態把握や目指す姿の共有の場を設けたり、匿名で相談できるオンライン上の掲示板を提供したりした。</p> <p>・新採教員の授業への助言や、新採教員とベテラン教員が共に対象児童生徒の実態把握を行うなど、OJTを基本とした新採教員育成の推進ができた。</p> |
| 自立活動部 | <p>○自立活動やプロセスシートの意義について教員間及び保護者と共有を図り、自立活動の指導の根拠を明確にする。</p> <p>○自立活動教諭及び外部専門家、教員で連携して、自立活動の指導に必要な専門性の向上を図る。</p> | <p>・プロセスシートの作成・配付の進め方について教育課程係と連携し計画的に進める。</p> <p>・保護者向けの説明文書を作成する。</p> <p>・自立活動教諭の校内相談体制を整備(計画、実施)する。</p> <p>・自立活動教諭や外部専門家から受けた助言、自立活動の指導に関する情報を「自立活動だより」にまとめて発信する。</p> <p>・自立活動教諭と連携して、身体の動きに関する勉強会を実施する。</p> | ①②④ ⑥⑦⑧ | B | <p>・教育課程係、各学部、学習指導改革推進部、支援部と連携して、プロセスシートの作成や配付の手続きについてチャットを活用しながら共有できた。次年度も継続したい。</p> <p>・セラピスト学校訪問を軸に、自立活動教諭の校内相談体制を整えてきたが、計画通りに進められなかった点や多くの児童生徒の相談に応える体制作りの点では課題が残った。次年度は職員が気軽に相談できる体制整備(各教室をセラピストと回り、職員からの聞き取りを、ケース相談につなげていく等)を検討していく。</p> |

| | | | | | |
|-----------|---|---|------------|---|---|
| 生徒指導部 | <p>○児童生徒の心や思いに寄り添った具体的な指導・支援の充実を図る。</p> <p>○児童生徒の安心安全な学校生活を守るために、スクールバスに関係する方々との連携を図る。</p> <p>○障害者スポーツを通して、障害者に対する理解啓発に努める。</p> <p>○音楽部、美術部の指導を充実させ、音楽会や美術展などへ積極的に参加する。</p> <p>○特別支援学校の芸術文化活動を通して、交流活動を推進し特別支援教育の理解啓発を図る。</p> | <p>・学校生活に関するアンケートや面接を行い、児童生徒の問題点や悩みを把握し、各学部・各校務分掌部と連携して問題の解決を図る。</p> <p>・児童生徒の安全を守るための不審者対応の避難訓練を行う。</p> <p>・スクールバス登校に関しては、日常的に保護者、乗務員、教職員などからの運行や児童生徒に関する情報把握に努め、安全安心な運行ができるように対応する。</p> <p>・学校間交流等を通して、障害者スポーツを多くの方に知ってもらい、障害者の社会参加に対する理解を深められるようにする。</p> <p>・他校との交流では音楽会や美術展への参加を通して、趣味の拡大や技能の向上を目指したり、達成感を味わったりすることとする。</p> <p>・高文連では、部門大会やアートエキシビジョンでの作品展示や学校紹介ビデオ等とおして地域の方に特別支援学校の理解を深めてもらう。</p> | ①②③ ⑥⑦⑩ | B | <p>・学校生活アンケートは、6月と1月の2回実施することができた。また、アンケートの結果を指導に生かすことができた。</p> <p>・性の多様性を尊重する教育の推進として、LGBTQIに関する講演会を実施(生徒向け、教職員向け)することができた。</p> <p>・不審者対応避難訓練は、水戸警察署生活安全課スクールサポーターと連携し、計画通りに実施することができた。</p> <p>・スクールバス運行に関しては、安全安心な運行のため、毎日運転手からは運行状況、介助員からは児童生徒の乗車中の様子を聞くことができた。また、情報共有、情報交換のためのスクールバス運行委員会をつき1回実施した。</p> <p>・eスポーツ部では、「eフット」「ロケットリーグ」「フォートナイト」の3競技で4つの大会に参加した。「eフット」「ロケットリーグ」では、初戦勝利することができた。</p> <p>・音楽部では、水戸市音楽祭、ひたちなか市音楽祭の2つの音楽祭に参加し、練習の成果を音楽祭で発揮することができ、演奏に達成感を味わうことができた。</p> <p>・高文連では、学校紹介ビデオを作成して他校に紹介し、オンラインで他校生徒と交流をすることができた。また、部門大会にも参加することができた。</p> |
| 保健安全部 | <p>○児童生徒が健康で安全な生活が送れるよう、健康管理や保健に関する研修会を行う。</p> <p>○医師、保護者、関係職員で医療的ケアについての情報を共有し、安全・安心な医療的ケアを実施する。</p> <p>○栄養と健康に関する指導を実施し、安全に給食を食べられるように支援する。</p> <p>○学校防災安全の向上と保護者・地域との連携に努める。</p> <p>○校舎内外の美化と整備、駐車場の運営を行う。</p> | <p>・児童生徒が健康で安全な生活が送れるよう、健康管理や保健に関する研修会を行う。</p> <p>・医師、保護者、関係職員で医療的ケアについての情報を共有し、安全・安心な医療的ケアを実施する。</p> <p>・栄養と健康に関する指導を実施し、安全に給食を食べられるように支援する。</p> <p>・学校防災安全の向上と保護者・地域との連携に努める。</p> <p>・校舎内外の美化と整備、駐車場の運営を行う。</p> | ② ③ ④⑧ | B | <p>・定期健康診断や研修会、緊急医療訓練も計画通り実施することができた。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインを必要に応じて改定し、感染予防対策を講じた。</p> <p>・医療的ケア安全委員会を実施し、ケア児の状況や課題を共有した。巡回指導では、医ケアに関する相談に答えていただくことができた。</p> <p>・「食育だより」を提示したり、学校給食週間を計画したりして、食に関する知識を増やし興味関心をもてるようにした。</p> <p>・避難訓練は、避難場所を分散する等の感染予防対策を取ったうえで、計画通りに実施することができた。また、非常食体験も行うことができた。</p> <p>・学校防災連絡会議を開催し、学校防災アドバイザーから防災に関する助言をいただいたり、協力関係を築いたりすることができた。</p> <p>・定期的に花壇を整備し、校内美化に務めた。</p> <p>・工事や行事の際の、職員駐車場の確保に苦慮した。今後、職員駐車場や行事の際の臨時的な移動に十分な駐車場の確保が必要になる。</p> |
| キャリア教育推進部 | <p>○関係機関や保護者と連携を図りながら進路指導を推進する。</p> <p>○小学部保護者の高等部見学や中学部の職場体験、高等部の現場実習、企業や福祉施設の見学などの体験的な活動を系統的に実施し児童生徒の主体的な進路選択に向けたキャリア教育の推進や充実を図る。</p> <p>○高等部の進路総合や生活単元学習の授業の充実を図る。</p> <p>○保護者や職員への進路関連情報の発信の充実を図る。</p> | <p>・個別の教育支援計画の活用や現場実習などを通して、企業や福祉施設と生徒の情報を共有し理解促進を促すことで生徒の進路実現を図る。</p> <p>・「いばらきキャリアパスポート」の活用、小学部1・6年保護者の高等部見学、中学部生徒の職場や福祉施設体験、高等部1年生徒の企業や福祉施設の見学・体験、高等部2・3年生徒の適切な場での現場実習などを通して、系統的なキャリア教育の推進と進路選択の充実を図る。</p> <p>・生徒一人一人の主体的な進路選択や自己実現につながるよう、教師間で共通理解を図りながら、進路総合学習や生活単元学習の目標や内容を見直し実践する。</p> <p>・進路だよりや1分で読める進路だよりの発行、小学部1・6年保護者、中学部保護者、高等部保護者向けの進路指導説明会、全保護者や職員を対象とした福祉施設等説明会を実施するなど、進路関連情報を積極的に発信する。</p> | ②③④ ⑤⑥ | A | <p>・県立図書館のOriHimeでの実習をメディアで取り上げてもらい、生徒の社会参加に対する取組みについて理解啓発を図った。</p> <p>・現場実習の巡回に自活部職員が同行し、身体面で支援の配慮が必要な生徒について進路先と情報共有を深めることができた。</p> <p>・職員にキャリアパスポートの理解に関するアンケートを実施し、課題に対しては動画を作成して理解促進を図ることができた。</p> <p>・キャリア教育全体計画を踏まえて、小学部のキャリア教育の系統制を整理することができた。</p> <p>・小学部3・4学年での進路座談会を今年度から実施した。小1・3・4・6、中3、高1・2・3保護者に進路に関する講話の充実を図ることができた。</p> |

| | | | | | |
|------------|---|---|--------------------------|----------|---|
| <p>舎務部</p> | <p>○舎生が目指す卒業後の生活を見据え、学校・保護者と連携を図りながら生活スキルの向上を目指す。 ○舎生一人一人に寄り添い、安心・安全、活力ある舎生活が送れるような環境づくりに努める。 ○校内外に寄宿舎の情報を積極的に発信することで寄宿舎への理解啓発に努める。 ○業務内容の見直し改善を柔軟に行い、安心して働ける環境を整える。</p> | <p>・舎生の実態把握、中心的課題を共有し、関係職員（自立活動部）とも連携し個々に応じた支援に努める。 ・将来の社会生活に向けて、様々な体験が出来るよう共通意識のもと安心・安全な環境を整える。 ・舎生活の様子等を定期的にICTを活用して発信したり、支援部と連携し、外部機関へ寄宿舎のリーフレット等を配付したりする。 ・各業務を効率的かつ円滑にすめられるよう文書作成等の見直しや改善を柔軟に対応する。</p> | <p>①②③ ④⑤⑨ ⑩</p> | <p>B</p> | <p>・自立活動部の担当者に生活支援方法についてのアドバイスをもらい、職員間で共通理解のもと個々に応じた支援をすることができた。 ・個々の実態に応じた生活講座や一人暮らし体験を実施したことにより、成果と課題を関係者と確認することができた。 ・外部機関等に寄宿舎リーフレットを配付したり、ICTを活用して寄宿舎の情報を定期的に発信したりしたことで、理解啓発の機会を多く作ることができた。次年度のPRIについては、オフラインでの方法も検討していきたい。 ・業務内容の見直しや効率化に向けては、職員間で複数回話し合いを持ち、柔軟に改善することができた。</p> |
| <p>小学部</p> | <p>○児童一人一人のニーズを把握し、安心・安心して学習活動に取り組めるようにする。 ○ICTを活用し、児童一人一人の実態に合った学習活動を実施する。 ○保護者、関係機関との連携を大切に、個別の教育支援計画を活用しながら、自立と社会参加を意識した支援をする。</p> | <p>・安全な環境の中で、安心して学校生活が送れるよう、一人一人の状況に応じたきめ細やかな支援を進める。 ・ICTを積極的に活用し多様な学びを実現するために指導の方法の工夫・改善を図り、ICT推進部との連携を進める。 ・個別の教育支援計画の見直し検討をしながら、地域社会の人々との信頼関係、協力関係を築き、小学部からのキャリア教育の充実を図るために体験を中心とした活動を取り入れる。</p> | <p>①②③ ⑤</p> | <p>B</p> | <p>・児童一人一人の実態を把握し中心的課題を教師間で共有することで、個に応じた学習活動に取り組むことができた。 ・ICT推進部の研修をとおして、学習場面に応じた活用をしたり、学習への意欲や興味・関心を高めたりすることができた。また、他校との交流学習において児童同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びをすることができた。 ・保護者、関係機関との連携を取りながら、児童の容容や支援の在り方について共通理解を図ることで、協力しながら児童の成長を喜び合うことができた。</p> |
| <p>中学部</p> | <p>○一人一人のニーズに応じた授業づくりをとおして学力の向上を図る。 ○安心・安全な学校生活の充実と生活の基盤となる地域社会の正しい知識と理解を深める。 ○基礎学力の定着を図るとともに、自主的、共同的に学ぶ態度を育成する。 ○社会生活を養うための体験的な活動を行い、自己や他者を理解するとともに知識や経験の拡大を図る。 ○自発的な動きや意志の表出を引き出しながら、伝える力の拡充や身体機能の維持・向上を図る。 ○業務の見直しを図るとともに各職員が得意分野を生かし協力しながら効率よく進められるような体制づくりを行う。</p> | <p>・年間指導計画の精選と、教材・教具、板書等の工夫に努め、ICT機器を活用しながら確かな学力の基盤の育成を図る。また、自立と社会参加を目指し、具体的な体験をとおして自己や他者の理解を深め、他者と協力して取り組む姿勢を育む。 ・保護者、関係機関との連携を密にし、個別の教育支援計画等の策定及び適切な活用を図る。 ・自己の進路を見据えたキャリア教育の推進と充実を図り、体験的活動に積極的に取り組む。 ・自分の役割を理解して、互いの良さを認め合いながら仲間と協力して活動に取り組む態度と基礎的な技能を養う。 ・自分の身体に対する意識を高め、身体機能の維持や体力の向上を図る。人との関わりの中で自発的な動きや意志の表出を引き出しながら、伝える力の獲得及び拡充に努める。（必要に応じてICT機器を活用） ・教材の共有化や情報交換を行い、効率よく授業準備や事務処理ができるように努める。</p> | <p>①②③ ⑤⑧⑨ ⑩</p> | <p>B</p> | <p>・年間指導計画をもとに、実態に合わせた教材や教具を工夫して授業を展開できた。電子黒板やタブレット端末等のICT機器を適宜活用し、学力の定着、向上を図ることができた。 ・視線入力装置やデジタルハ装置等を活用し、自発的な動きや意思の表出に努めることができた。 ・生活体験学習等の実際の体験学習をとおして自主的に学んだり、共同的に学んだりすることができた。感染予防を行い、安全に配慮しながら安心感のもてる生活環境、学習環境づくりを行ってきた。 ・ワークシートや教材教具の共有をしながら授業準備等が進められるようになることが課題。</p> |
| <p>高等部</p> | <p>○生徒が目指す自立と社会参加に向けて、一人一人のニーズに応じた教育活動の充実に努めるとともにキャリア教育の推進を図る。 ○主体的意欲的に取り組める学習環境の整備に努めるとともに、体験的な学習の充実を図る。 ○保護者や関係機関との連携を深め、生徒が希望する支援を大切に個別の教育支援計画及び個別の指導計画、移行支援計画の作成と効果的な活用を図る。</p> | <p>・自立と社会参加のための必要な知識や技能だけでなく、自ら考え、自ら選択・決定する力を高められるような授業内容の精選や展開を工夫した教育活動を実施する。また、現場実習や進路学習週間、進路総合や職業の授業に限らず、学習全般においてキャリア教育の視点を意識した指導に学部で共通理解を図り取り組む。 ・生活年齢や学習状況等を考慮しながら、生徒の疑問や考えを大切に授業を展開し、教科指導の充実を図るとともに、問題解決力や判断力などを身に付ける。また、卒業後の生活を見据え、学校外での体験を増やし、社会参加に必要な力を養えるよう指導を行う。 ・個別面談等で担任と保護者として生徒の実態、支援目標や内容、手立てなどを話し合っ作成した個別の指導計画をもとに、支援の情報共有しながら日々の教育活動で実践していく。また、入学後からの支援を円滑に進めるために、入学希望の生徒を対象にした高等部体験会を実施する。</p> | <p>①②③ ④⑤⑥ ⑦</p> | <p>B</p> | <p>・進路に関する学習の中でだけでなく、普段の授業から自ら選択、決定するという場面を多く取り入れている。教育課程にかかわらず、生徒の実態に応じた方法等での自己選択、自己決定の場面を設定している。しかし、関連する内容を同じ時期に教科横断的に学習するなど、年間指導計画立案の際に検討したり、年度途中でも実施の時期を変更したりするなど対応していく必要がある。 ・各教科等の学習の中で、展開や発問などを工夫して、生徒自身が疑問をもつ、考えるという授業を実施することができた。学校外での体験や講師を招いての授業などについては、コロナウイルス感染の状況により中止や延期などをすることがあったが、内容や方法などを工夫し、昨年度よりも多く回数を実施することができた。 ・高等部体験会を実施することで、入学希望の生徒やその担任が高等部の授業を体験する場を設けることができた。また高等部としても、入学希望の生徒の実態を把握することができ、入学者選考を実施する際や入学後の円滑な支援の移行につながると思われる。</p> |